

# シリアにおける農業普及ならびに普及員訓練

## 第5回 シリアにおける農業普及員訓練改善業務

前回紹介したように、シリア農業農地改革省・農業普及局に農業普及（作物栽培及び生活改善）に関する JICA 長期専門家が 1994-97 年及び 1995-97 年にそれぞれ派遣された。その活動の中から、普及員の質的向上の必要性が指摘され、そのために訓練局を相手機関とした普及員研修センターに対する技術協力が効果的であることが提案された。それを受けて、1999 年から 2 年間にわたり訓練局に専門家派遣が行われた。主な業務の内容は、研修センターにおける普及員訓練のための訓練活動の強化であり、主な指導内容は普及員訓練のためのカリキュラムや教材の見直し及び改善、及び普及員訓練に関わるスタッフの養成である。

まず、訓練局で実施している既存研修コースの見直しの結果、本シリーズ第3回ですでに紹介したような問題点が指摘された。このような現状分析をもとに、既存の研修コースを改善して研修効果を少しでもあげるために、以下のような提言を行った。

- (1) 普及員のレベルに応じた研修の実施：研修対象となる普及員の能力や経験年数に応じて、異なった内容やレベルのコースに分ける。また、農家の多様かつ高度な要求に答えるために、SMS (Subject Matter Specialist) のような専門的な知識や技術を持つ上級普及員の育成も行う。
- (2) 中央と地方の研修の有機的な連携：中央（国レベル）及び地方（県レベル）の各研修の位置付け（役割分担）とそれぞれの連携について明確にする。中央では TOT (Training of Trainers) コースを行い、上級普及員の養成を図り、各県レベルではその受講者が一般普及員の訓練にあたるという構図が考えられる。
- (3) 新しい研究成果や情報の伝達：普及の役割の一つは、試験研究機関等における新しい研究成果を農家に伝え、現状の改善を図ることであり、そのためには普及・訓練部門は常に各関連機関と連絡をとって新しい情報の入手に努め、それを研修等に反映させていくことが求められる。

これらの提言に基づいて、より実践的な研修や受講者にとって有意義な内容とするために、いくつかの新規コースの企画及び実施を行った。近年、シリアにおいてもコンピュータはしだいに普及しつつあり、普及業務に関連したコンピュータ研修の要望が大きかったため、統計データの利活用、普及用パンフレット作成、簡単なデータベースの作成等を含む訓練コースをカウンターパートと共に実施した。また、シリアは広大な半乾燥地をかかえており、環境保全を考慮した農業開発や持続可能な農業開発は重要なテーマとなっているため、環境保全に関する研修コースも開催した。さらに SMS コースの第一段階として、短期専門家の支援のもとに、シリアで重要な作物の一つである果樹栽培に関する新規研修コースを実施した。

2 年間という限られた期間であったが、新規コースの企画及び実施を通してカウンターパートや研修受講者に特に強調したことは、自分の手や頭を使って考えることの重要性やおもしろさだった。今後の課題としては、現状では研修の具体的な成果よりも研修に関わる数字（回数、期間、研修人数等）が重視される傾向があるため、訓練の効果を評価するしくみや資格認定制度等の導入も検討すべきものと考えられる。また、研修に積極的に参加したり、研修効果を上げるためにも、訓練参加のインセンティブも重要であり、資格認定が給料増加につながるような給与体系の見直し等も必要であろう。さらに、研修計画策定の根本的な部分に関わる問題であるが、なぜその研修が必要なのかというニーズアセスメントも重要で、そのために住民参加型手法 (PRA) 等を取り入れた、調査手法に関するワークショップあるいは研修コースの実施も必要である。



普及活動におけるコンピュータの活用



果樹栽培専門家による SMS コース



地域理解のための地図の作成